

東日本大震災で被災した地域でもGW中の観光入込み客数が震災前を上回り、震災後2年を経て、県内の観光は全体的にみてその影響を脱しつつある。

11年3月に発生した東日本大震災から2年が経過した。震災後の11年から12年にかけて県内の観光面では、TDR、木更津アウトレットモール、昨年秋に行われたアクアラインマラソンなど、集客力が高く好調な施設やイベントがあった一方で、震災の影響を受け銚子・香取地域や南房総地域などでは観光客の減少が続くなど、2極化の動きが見られた。しかし、最近では後者の地域でも震災の影響が薄らいできており、県内の観光は全体的に見て震災の影響を克服しつつある。

県によると、県内主要観光施設へのGW中の入込み客数(TDRを除く)は約83万人で、前年比で+18万人(+27.6%)、震災前の10年比でも+13万人(+18.0%)となった(GWの期間が10年は6日間、13年は7日間であったため、1日平均の入込み客数で計算すると13年は10年比では1.8%)。地域別にみると、もともと好調だったベイエリア・東葛飾地域等だけでなく、震災後、津波への恐怖や液状化被害等から、観光入込み客が大きく落ち込んだ北総地域(銚子・香取方面)でも、入込み客数は震災前の10年を上回る水準(+17.4%、1日平均では2.8%)となっている。

- GW中の香取市では、水郷佐原水生植物園には直前にマスコミで大きく取り上げられたこともあり前年の約5倍、伊能忠敬記念館には前年比+5%の観光客が訪れ、佐原のまちは賑わいを見せた。
- 銚子市では「GW中の市内の各観光施設への来場者数が前年を2割方上回り、ホテル・旅館も満室が続いた」(銚子市観光商工課)との声が聞かれた。

- 各潮干狩り場でも、11年に風評被害で来場者が激減し12年も減少分の半分程度しか戻っていなかったが、今年は好調で、木更津市の牛込海岸では来場者数はほぼ震災前の水準まで回復した(牛込漁協)。南房総地域では、「ツツジの開花時期が例年より早く、GW前に終わったことから入込み客数が伸び悩んだ」などとする向きもあり、「4月19日に開業した酒々井のアウトレットなどに客足をとられた」(観光関係者)との声も聞かれたが、GW中の全体の入込み客数は10年比で+17.1%となっている。

GW期間中の成田空港の外国人入国者数は、前年を18.9%上回った。空港周辺のホテルからは台湾や東南アジアなどからの宿泊客が増加したとする声も聞かれた。県内のJRの近距離切符の販売数も前年を6%上回った。4月27日に圏央道の東金JCT~木更津東IC間が開通し、4/27~5/6の1日の平均交通量は、区間中で交通量が最大であった市原鶴舞IC~木更津東IC間で13,780台となり、県内観光客の増加に寄与したものと推察される。

このように一部では弱めの動きがあるものの、県全体でみた観光は「震災前の水準に戻ってきている」(県観光企画課)との受け止め方が大勢となっている。今後は夏場に向けて、北総地域や南房総地域の団体客の入込みが回復していくかを注視していく必要がある。

震災で被災を受けた地域では、観光以外でも人口、農業・漁業など広い分野で震災の影響が薄らいできているさまがみられ、被災自治体においても、東日本大震災での甚大な被害への対応策として、短期的な復旧事業はもちろん、意識面でも復興に向けて、市民を元気づけ、勇気を与えるような明るい前向きなイベントの開催や情報発信に力を入れる動きが見られる。

- 震災時に津波により大きな被害を受けた旭市では、13m級の津波避難タワーを12、13年度に2基ずつ建設し、また17年度までに盛土による避難施設を建設する予定。
- 柏市では、4月から「We Love Kashiwaキャンペーン」をスタートさせ、今年度中に柏まつり、花火大会(震災以降11、12年は中止し、今年は市内4カ所で開催)、かしわ街ごとキッズニア、柏駅イルミネーションイベント、と盛りだくさんのイベントを開催する予定で、「元気な柏」の発信を進めていく方針。(弓野)

GW期間中の観光関係データ

県内主要観光施設入込客数(4/27~5/6)	829,580人(前年比+27.6%、10年比:+18.0%)	資料:千葉県
成田空港外国人入国客数(4/26~5/6)	106千人(前年比+18.9%、過去5年で最多)	資料:東京入管
県内JR 近距離切符の販売数(4/26~5/6)	前年比+6%	資料:JR東日本千葉支社
圏央道交通量(4/27~5/6、1日平均)	13,780台(開通区間中最多の市原鶴舞IC~木更津東IC間)	資料:千葉県道事務所